

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1

トマ喰い虫社

☎045(563)5101 FAX045(563)9907

〔郵便振替〕東京6-136148

トマ喰い虫社

昨年11月に新住所に変わりました。お便りのあて先にご注意を……



PACIFIC VISION (WILPF: 自由と平和のための国際女性連合発行 91年11月号より)

トマホーク艦のあらたなヨコスカ母港に反対!

海外基地のない世紀へ

●梅林宏道

開かれた南北朝鮮和解の道

●金光男

自衛隊ハワイ演習を許さない / 91年の原潜入港、新記録 (ヨコスカ)

月刊紙「沖縄から」創刊にあたって

75

1992年1月20日

定価 100円

発行◆トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員 (月間会費)

団体	1口	2000円
個人	1口	1000円

●参加会員 (月間会費)

団体	1口	1000円
個人	1口	500円

●通信会員

年間	1口	2000円
----	----	-------

あなたも仲間に! (会費は本紙購読料を含みます)

海外基地のない世紀へ 正気への里程標

梅林宏道



1991年10月ヨコスカ・ピースフェスティバルで

「一九九〇年代は、相互依存と民主主義的価値と自己決定の尊重に基礎を置き、私たちの経済的安寧と地球環境の生き残りを考慮した新しい安全保障の仕組みを構築するまたとなない機会である。」(ジョセフ・ガーソン著『太陽は沈まない』米国の海外基地ネットワークに抗して、一九九〇年一〇月)

「ブッシュ大統領、これ(フィリピン上院の新基地協定否決)が、私たちがフィリピンで、そして世界中で実現したい『新国際秩序』です。私たちは、真の友好と相互敬愛と国際的な正義が、大小、強弱を問わずすべての国民を支配し、国家間の協定に二重基準は許されず、平和が武力や恐怖の均衡ではなく、精神の力と正義と人権の保証、愛と友情をもった相互の抱擁によって確保されるような世界を望んでいます。」(非核フィリピン連合声明『フィリピン人民から世界の仲間へ』、一九九一年一〇月)

海外基地は転変する

戦時に他国を攻める基地を自国領土外に確保したり、植民地主義帝国の維持のためにポルトガルに始まる海洋帝国が海外に海軍基地を設けてきた歴史は古い。しかし、今日私た

軍縮の流れに逆行
市民から批判も

一月十六日米海軍が発表。これぞなんと五隻目のトマホーク艦の母港。さすがの市長も「強い疑問」と...

トマホーク艦
オブライエンの
ヨコスカ母港を
止めよう

ちが見ている米国を中心とする大国の海外基地システムの歴史は決して古くはない。概して言えば、私たちの想像以上に海外基地の変遷は激しい。現に私たちは、フィリピンの米軍基地の閉鎖、ソ連解体に並行するソ連海外基地の閉鎖など、海外基地の盛衰の歴史の一幕を目撃しているのである。

四五歳以下の日本人にとって、生まれたときから日本に米軍基地が存在している。日本人々の中にいつの間にか海外基地について宿命観が住みついてしまった。その現状を考えると、海外基地は国際関係の変遷の中で、簡単に無くなるものであることを確認しておくことは有意義なことであろう。

今世紀に入ったとき、イギリスが海洋帝国として君臨し、海外に多くの海外基地を擁していた。ストックホルム国際平和研究所の報告によると(R・E・ハーカヴィー著『海外基地』、一九八九年)、第一次世界大戦が終結したとき、海外軍事基地網は、ほとんど植民地宗主国間の対抗のための存在であった。イギリスの海外基地が圧倒的に多く、それにフランス、スペイン、ポルトガル、オランダ、イタリヤ、日本、アメリカの順で続いた。相対的な軍事力の大きさと海外基地の展開数との間にほとんど相関関係はなかった。

占領と冷戦の遺物 米軍基地

アメリカが、海外基地の獲得に乗り出したのはハワイへの海兵隊の進駐に始まる。一八九三年、ちょうど一〇〇年前のことである。ついでアジア植民地分割に参加しようとするアメリカはスペインとの戦争の結果フィリピン、グアム、プエルトリコ、キューバなどを獲得した(一八九八年)。フィリピン、グアムの米軍基地化はこの時点に始まった。

第二次世界大戦の結果、米国の海外基地網は飛躍的に拡大された。しかし、第二次世界大戦中に形成された基地ネットワークを戦後も温存しようとするアメリカの試みは、多くの抵抗に遭ったことを思い返しておきたい。たとえば、アイスランドはNATO結成時(一九四九年)に加盟したが、激しい反対闘争の中で平和時の米軍の駐留を拒否した。

日本、韓国の米軍基地化は、両者の性格に根本的な差があるにせよ、いづれも第二次世界大戦の結果である。これらは、占領政策実施のための基地という性格を当然持っていたが、よく知られているように、同時に、すでに始まっていた米ソの熾烈な冷戦に規定されたものであった。

戦後の海外基地の変遷は、冷戦構造抜きに

は考えられない。アメリカは戦後直ちに、対ソ原爆投下のための戦略爆撃機を配する基地をイギリスと沖縄に設けた。続いて他の核兵器運搬システムの配備、核戦争のための通信・司令・官制・情報網(C3I)設置などが急速に進展した。戦後においても、インド支那情勢、中東危機など地域的な緊張の激化にともなってアメリカの海外基地網は時代とともに変化したが、冷戦下の対ソ包囲基地だけは増強一途をたどってきた。民間機関CDDI(国防情報センター)などによると、一九八九年時点でアメリカの海外基地は三五カ国、主要基地三七五、小さな施設も入れると二〇〇〇に上る。

この歴史を考えると、冷戦の終結、ソ連の解体は、アメリカの海外基地網に根底的な大変革をもたらさざるを得ないであろう。

海外基地の役割

アメリカ海外基地の役割については四つが掲げられてきた。

第一は、他国への軍事介入のための出撃ないし兵站基地。軍事介入はとりわけ第三世界への米国の政治介入の切札である。第二は、核戦略を支え、核戦争を戦うための基地網。第三は、アメリカ参戦の導火線の役割。とり

亜熱帯の太陽、白い珊瑚礁の砂浜、コバルトブルーの海、そして青い空のトロピカルリゾート。航空会社のキャンペーンなどを通して多くの人々に定着している沖縄のイメージはこんなところだろうと思います。防衛施設庁が夾竹桃の植樹などで米軍基地を隠しているの、那覇市街やハイウェイでマリソルトと空港を行き来するだけでは沖縄の米軍基地の全貌は見えてきません。

沖繩戦から二十七年間の米軍統治の後、一九七二年五月一五日に沖繩が米軍基地付きのまま返還されてから今年で満二十年を迎えようとしています。米軍の施政権下で、「太平洋

沖縄のことを もっとみんなに 知ってほしい

● ● ●
創刊しました

「沖縄から」編集委員会

伊波洋一(宜野湾市職労)
キャロリン・フランシス(宣教師)
我部政昭(琉球大学)

[連絡先]
〒901-22
沖縄県宜野湾市志真志517-1 沖縄キリスト教平和センター気付 「沖縄から」編集委員会
☎ 098(898)6628
FAX 098(897)6963
定価100円/会員専集中 通信会員●1口年2000円/維持会員●1口月1000円/参加会員●1口月500円(会費は購読料、郵送費込み)

洋の要石(Keystone of Pacific)として位置づけられ、海外における最大規模の米軍基地の島になった沖縄は、二十年めの今日どうなっているのでしょうか。

基地はなくせる

基地の縮小・返還が返還時の約束でした。しかし、今なお広大な米軍基地が沖縄本島の全面積の二十%を占めています。むしろ安保条約の基地提供義務を盾に、日本政府による基地強化と施設建設が毎年、何百億円予算で進行しています。

(九ページ下段へ)

わけ韓国、ドイツにおける共産側の攻撃が自動的にアメリカの参戦を引き起こすための仕掛けであるという説明があった。第四は、政治的利益の保持と影響の誇示。

ここにおいても、ソ連の解体とドイツ、朝鮮半島など国際情勢の根本的変化、民族自決国家主権・人権の不可侵などへの国際世論の成長を考えると、これら四項目の海外基地の役割を正当化する根拠も世界世論の支持も、今日全く失われたと言わなければならない。

時代錯誤の 在日米軍基地強化

そんな中で、昨年の空母インデペンデンスの横須賀母港に引き続いて、今夏、ヘリ空母ペローウツドの佐世保母港、五隻目のトマホーク艦オプライエンの横須賀母港が発表された。アメリカは海外基地網を日本の金で延命させようとし、日本政府は無条件でそれを受け入れた。

いまこそ、日本から海外基地のない二世紀に向かつてグローバルな運動を起こそうと提案したい。



ストップしよう! ハワイで演習計画 陸上自衛隊、今秋11月に

昨年は、湾岸戦争の勃発を契機に日本の国際貢献をめぐる議論が盛んに行われた。年末のPKO協力法案の国会審議においても、主な論点の一つは自衛隊の海外派兵にあった。自衛隊が合憲か違憲かの論議は別にしても海外派兵が憲法第九条に反するとの意見は大方の世論であったと思われる。

ウィークリー」は次のような内容を伝えてい

る。「日本の陸上自衛隊が、ハワイで実弾射撃演習などを行うとしている。74型主力戦車など約七〇台の車両、155ミリ砲、AH-1S攻撃ヘリなどが、ハワイにある米陸軍ホクロア演習場に運ばれてくる。防衛庁は訓練場の使用料を明らかにしないが、装備の輸送料だけでも五〇〇万ドルを要すると思われる。」

更に、12・7付「毎日デイリーニュース」によると、演習の時期は今年11月であり、兵員は三二六人である。

当然にも、ハワイ先住民から抗議の声が上がっている。彼らは、真珠湾攻撃の五十周年に、同じ島の爆撃を計画している日本人の無神経さを指摘している。この演習地はハワイ先住民の保護地域にまたがっており、日本軍の演習は、彼らに被害を与えるだけでなく、彼らを侮辱する行為だと彼らは語っている。

私達は、日本の海上自衛隊が、ハワイの聖地カホオラウエ島を艦砲射撃した前例を思い起こす。一九八〇年のリムパック合同演習でのこの爆撃に対して、ハワイ先住民は激しく抗議した。その結果自衛隊は次回演習では爆撃に加わらなかつた。

私達は、再び同じ過ちを繰り返そうとしているのだろうか。

くわえて、かつて村や町を丸ごと接収して建設された基地群ゆえに、フェンスひとつで隣りあう住民地域とのトラブルが、いつも各地で絶えません。そのため各地で自治体ぐるみの基地撤去運動が起こっています。東村のハリヤー基地建設反対運動や恩納市の都市型戦闘訓練施設建設反対運動、読谷村のパラシュート訓練やNBC(核・生物・化学兵器)用防衛訓練、反対運動、県道を封鎖して行われる核・非核両用の実弾砲撃訓練基地撤去運動、嘉手納基地へのフィリピンからの移駐反対運動などです。

米国は、東アジアから米軍を今世紀中に計画的に撤退させていく決定をしており、第一段階が進行中です。沖縄からも五千人規模の兵力削減が予定されています。「湾岸戦争」やフィリピンからの完全撤退などで一時的に米軍基地が重視されることはあっても、南北朝鮮の和解と非武装地帯化の実現、米国内の内政重視の主張の台頭などを背景に、沖縄からの米軍の撤退も加速していく可能性が

あります。

このような状況を背景に、太田革新県政は広大な米軍基地の跡地利用を計画的に実現するため、「軍用地転換特別措置法」を提起していますが、日本政府は拒否しています。

和解への道が見えてきた

南北不可侵合意の意義

キム・クァンナム
金光男
(在日韓国研究所・代表)

劇的な一歩踏み出した 「12・13合意」

昨年十一月十一日からソウルで開催されていた第五回南北高位級政治(首相)会談は、予定を一日延長して十二月十三日に、「南北間の和解と不可侵および交流・協力に関する合意書」署名に合意し、南北関係改善の劇的な一歩を踏み出した。あわせて「核問題」を解決するための代表接触を十二月中旬に板門店で行うことにも同意し、南北民衆にとっては予定外の「年末プレゼント」を贈られることになった。

国際的な脱冷戦潮流を背景として、九十年

九月に第一回南北高位級政治会談が実現したのだが、この会談はそれまでの南北会談とは内容・レベルともに大きく異なっていた。南北首脳会談を除外すれば、最も高レベルの協議であり、議題も軍事対決問題の解決と信頼造成のための南北交流問題が同時に扱われる、多次元交渉としてスターとしたのだった。そのため当初から大きな期待がかけられていたのである。

和解への「制度的」突破口

南北合意書の内容は、現在の南北関係を「国と国との関係でなく、統一を志向す

る過程で暫定的に形成される特殊な関係」として位置付け、①南北和解②南北不可侵③南北交流・協力④修正および発効の順序で構成されており、その内容は、南北の平和共存体制を確実・安定なものにするという点に重点が置かれているといえる。

南北交流に絶えず後ろ向きであった南と、南の革命の変革を祖国統一の核心事業としてきた北が、平和共存体制の構築へと歩みよったことには隔世の感がある。この合意書への署名によって南北は、分断と朝鮮戦争によって増幅されてきた対立と不信状態を「清算」し、和解と協力を促進するための「制度的」突破口を手にしたと言えるだろう。しかも七十二年の七・四共同声明が宣言的であったの

核査察受け入れの背景

南北高位級政治会談は、決して形式から見て、この合意とは根本的な違いがある。

南北高位級政治会談は、決して順調にのみ進展してきたわけではなかった。そのうちでも最大の障害は共和国の「核査察問題」であった。この問題をめぐって韓国・米国の日本は緊密な共同歩調をとり、昨年十一月二十日からソウルで開催された第二十三回安保協議会では、共和国の核開発に韓・米両国が「深刻な憂慮」を表明し、その対抗策として、共和国の核開発脅威がなくなるまで、駐韓米軍の削減計画を延期することに合意した。そして米上院外交小委員会の聴聞会では、共和国による核兵器製造をストップさせるために、「米国が北朝鮮に対し軍事行動をとることの是非が議論の焦点となった」(91・11・27朝日新聞)ように、国際的な緊張緩和と逆行する緊張の高潮が朝鮮半島を覆い始めた。

そして同じく十一月十八日から北京で行われていた第五回朝日国交正常化交渉は、再び共和国の「核査察問題」をめぐって対立し、何ら具体的な進展を見ないまま終わってしまった。

このような共和国に対する強硬姿勢の一方で、九月にはブッシュ大統領の戦術核兵器破壊方針が表明され、続いて十一月八日には盧泰愚大統領の朝鮮半島非核化宣言が発表された。この背景には、勿論、米ソ冷戦対立の終えんと湾岸戦争で証明された先端技術兵器の存在、空、海から発射する核ミサイルによる「核の傘の維持」ということがありながらも、韓国・米国の対共和国シフトが、「改革・開放誘導政策」へと重心移動してきたという点に求められる。

共和国にとっても、社会主義諸国の激変・経済不振の打開を契機として、日本、米国のよび南との関係改善に積極的となってきたが、その条件として提示されたのが、①国連加盟②核査察の受け入れ③南北対話の積極促進であった。

国連同時加盟に応じた共和国は、「核査察の受け入れ」を外交カードとして活用し、南に配備されている核兵器の争点化とその撤収に連結させてきた。それは、先ほど指摘した進展を生みだしながら、もう一方では、第五回朝日国交正常化交渉に見られたように、日本、米国そして南との関係改善にとっては、「太いトゲ」となってきたのだ。こういう経過を経て、最終的には昨年末の十二月三十一日に「朝鮮半島の非核化に関する共同宣言」の合意にいたったのである。

南と北 それぞれに腹づもり

第五回南北高位級政治(首相)会談において、南北双方が譲歩し、一挙に「南北間の和解と不可侵および交流・協力に関する合意書」署名にいたった背景に、南北双方の腹づもりがあったのも当然である。

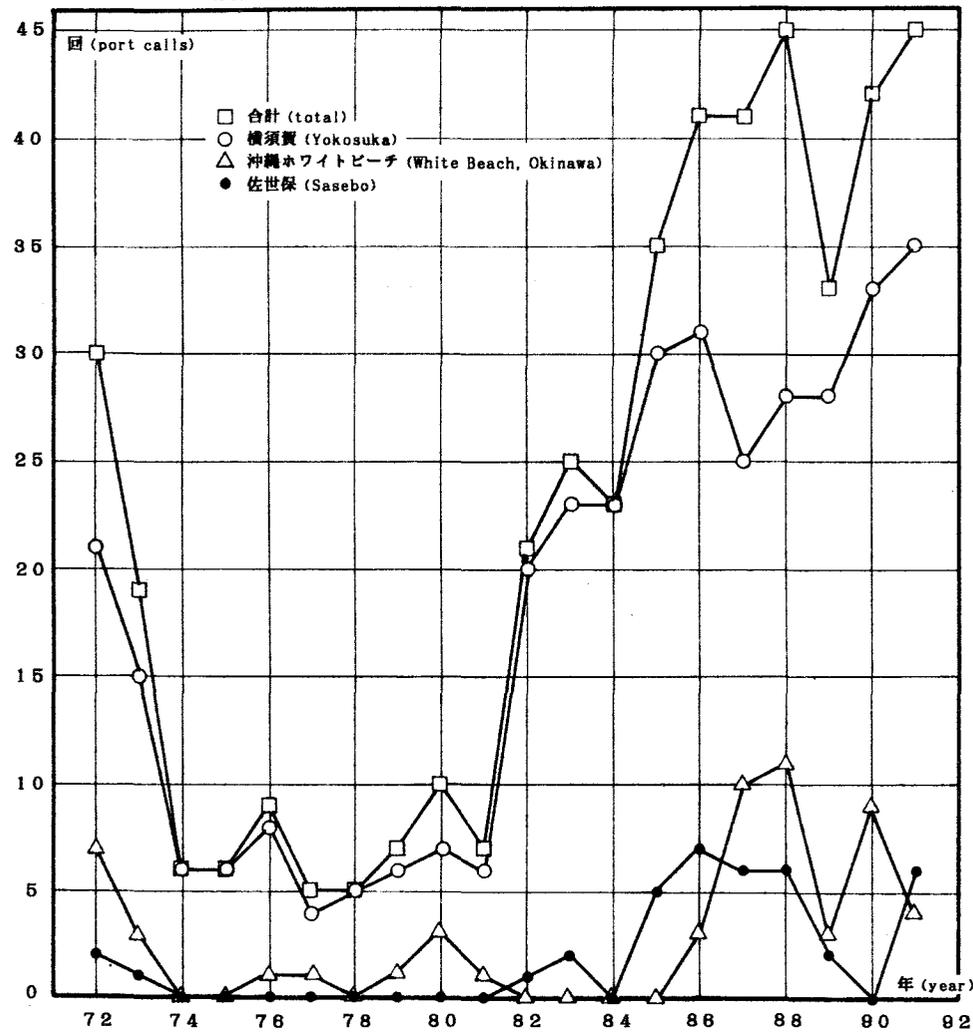
南は、南北首脳会談の早期実現に連結させようとの視角から合意書署名に応じたとの分析が可能であり、北にとっては、朝鮮半島での平和定着・朝日国交正常化交渉の進展と朝米接触のレベル・アップとの観点から、南当局者との対話促進と合意が不可避となっていたと分析できる。

とくに今年、韓国は国会議員選挙・地方自治体首長選挙そして大統領選挙が予定されているが、執権勢力は、今後の韓国政治を決定する権力交替期を迎える中で、南北首脳会談の実現を国民の支持パラム(旋風)を獲得する有力手段として活用しようとしている。そのために、南北首脳会談の実現は、南北の関係促進に画期的な巨歩を刻みながらも、実現時期によっては韓国の民主化進展に負担となる可能性も否定できない。(次ページ下段へ)



原子力潜水艦寄港回数の推移

(Portcalls at Japanese Ports by the US Nuclear Powered Submarines)



九一年 ヨコスカへの原潜入港 これまで最高 全国では史上タイ 目立つ短時間・反復入港

1 昨年、横須賀には三十五回原潜が入港した。一昨年を二回上回る最高記録である。その内訳はロサンゼルス級二十三回、スタージョン級九回、パーム級三回である。一昨年はそれぞれ、十八回、十一回、四回であり、最新型でトマホークの配備対象艦であるロサンゼルス級の寄港回数は四十五回で一九八八年と最高タイ記録となった。

2 横須賀では昨年は、岸壁に切岸せず沖合に停泊し、短時間で出港する「沖泊まり」が目立った。実際には一昨年十一回、昨年は八回であり、この二年間の特徴といえる。一昨年の中東湾岸危機から湾岸戦争終結までが十回、昨年八月以降が六回であった。これ以外の三回は、一昨

鈴木春男（非核市民宣言運動ヨコスカ）

年の四月から七月の三回のみである。中東情勢およびソ連情勢の緊迫とヨコスカへの短時間入港の増加が一致していると言える。

3 梅林さんの整理によると、この短時間滞在を情報交換型、長時間滞在を補給・休養型と寄港目的を分類したとき、一昨年からの情報交換型の寄港が急が増えたことになる。その背景には、トマホークを含め、横須賀基地の対潜情報機能が強化されたとか、情報体制に変化があった可能性がある。

4 この他にもうひとつの特徴に気がつく。同一艦が短時日のうちに入港を繰り返すのである。一昨年は三〜四回であったのに、昨年は七回もあった。佐世保でも同じ特徴が見られた。

(前頁より)

統一問題への 国民参与こそがカギ

南北合意書の署名によって、南北は政治・軍事・経済・文化の各分野での和解と協力を進展させ、平和共存体制を確保・安定させる一歩を踏み出したのだが、合意内容は、抽象的であり、その発効手続きについて国会は実質的にはなんら関与できないという点を指摘しておかなければならない。したがってこの合意を確実なものにしていくためには、どうしても統一問題への国民の参与が保障されなければならない。

つぎに平和共存体制の構築を民族統一の実現に異なった政治・経済体制を前提として、民族統一へと発展させようとする時、最大の問題は、統一政府とソウル・ピョンヤン地域政府の権限範囲になるだろう。統一政府の権限範囲を広げてソウル・ピョンヤン地域政府の権限範囲を小さくするのか、その逆なのか。七二年の七・四共同声明の署名が、「ソウル側を代表して・ピョンヤン側を代表して」となっていたことに比して、南北合意書の署名が、「大韓民国国務総理・鄭元植、朝鮮民主主義共和国政務院総理・延亨默となっていることは、その示唆かもしれない。

(五ページから)

東西冷戦が終結し、東欧・ソ連の社会主義体制まで崩壊して、世界が大きく変わりつつある九〇年代、日本政府によって強化されていく沖繩の広大な基地は、米軍撤退後には日米安保の枠を越えてアジアに対する日本の巨大な軍事的拠点につながっていく可能性があります。

海を越えて

沖繩で起こっていることを、国内だけでなくアジアを中心に国外に多くの皆さんに知ってもらうため、私たちは昨年十一月、月刊通信「沖繩から」と英文「OKINAWA VOICE」を創刊しました。

多くの市民、労働者、大学教授、学生がネットワークを作り、編集委員会を中心に、沖繩で毎日報道される新聞記事を中心に編集していきます。この小さい通信を通して、沖繩と全国、さらにアジア・太平洋の各地とつながるネットワークがひろがって行くことをめざしています。多くのみなさんが、購読してくださいよう呼びかけます。

読者から



●十一月最後の日曜日の午後、平和船団長の鈴木シゲキさんと横須賀港の掃除をした。陸から棒や網でゴミをすくうのだが、その量と言ったら大変なもの。廃材、空カン、ビニールなどたった10mぐらいの岸辺で山のようなゴミをすく集めた。臨海公園の端から端までゴミをすくっていたら一週間くらいかかる程だろう。夏に大勢でやった時はあまりゴミがなかったで、今日は風でゴミが沢山流れていたらしい。シゲキ団長の話ではゴミが東京湾をグルグルまわっているそうだ。みんな軍港のお掃除をしよう！

(小林ヒロミツ/団体職員/横浜市)
●政治状況の厳しさは、ますますお金のあるところとなるところの差を拓けるのでしよう。沢山のニュースレターを読んでいて何時もほっとするのが貴誌の後記「編集室から」です。僕たちも、ものすくお金にならない仕事

をいくつもかかえ、他人事とは思えない(お)氏のコメントにジーンとくるのでした。

(はい/東京都)
●私の朝夕の祈り:(朝)神様仏様私達を守り下さり、現代人としての責務の一端を果たさしめ給え。而して我々のいととき子孫を原爆原発の災厄より免れしめ、新しい協和の歴史の建設をなさしめ給え。(夕)神様仏様病める者悩める者に力と光を与え給え。力と能力のあるものには貧しき心を与え給え。而して皆で助け合って其々の生活を全うすることが出来ますように!! (善塵/東京都)

●比島が米軍基地を拒絶し、韓国が在韓米核の全部の撤回に踏み切ろうとする時、最後まで米の一国核覇権に屈従する日本の没主体の体たらく!!トマ喰い虫社の任務更に重し。共に敢闘致したし。(石黒寅毅/牧師/高崎市)
●梅林氏の「トマホーク北朝鮮に照準、米国の恐ろしい本気」にあるように、アメリカが北朝鮮を「第二のイラク」にしたい本気がひしひしと感じられるこの一ヶ月でした。毎日毎夜ニュースにかじりついていましたが、十二月二十六日夜のニュースで南北板門店会議が「北はノ・テウ声明を信用して核査察に応ずる用意あり」と報じられ、ようやくほっとしました。アメリカもこれでは是非良心的にすべの核を(海・空ともに)撤去し、公平に核

査察に応じることを望みます。

(戸石あや子/大宮市)
●せめてタマには発送のお手伝いぐらい出来たらと願いつつ、果たして願いはいつの日に叶うやら? 残念。生命ある限りは、核のない世への途づくりへ少しでもお役に立ちたいと切望すれど、平和への祈りを踏みにじるPKO法案に怒りと悲しみで一杯。それだからこそいよいよ否の声の大切さを痛感。皆様の尚の御清勝を祈ります(斎藤美智子/国分寺市)
●No71に「あきらめ」「無関心」過半数であったが何処の国でも戦争を知らぬ世代が多くなれば当然でしょう。さりとてこのままでは将来が恐ろしい。各国が真実を教える歴史教育をすることが大切。わが国も天皇制がなくならぬと真の民主主義の国にはならぬ。PKOより先ず迷惑をかけた国々への贖罪が肝心。去る十一月二十日PKO反対のいろんなデモがあったが、日本山妙法寺の故藤井日達師のご意見に賛同する私は日蓮宗の僧侶や信者に混じって八千公像前の反対祈願に参加した。

(元陸軍二等兵・川原満雄/伊東市)
●昨年末からの正月休みに、考えるところがあり梅林氏等がやってきた「ただの市民が戦車を止める会」「民衆の声」それに「トマ喰い虫」の機関紙を丹念に読んだ。若い時から一貫して運動者の立場から発言・行動されて

いることに、感動の念を禁じ得ない。仕事の忙しさにかまけて、資料がどんとたまっていくのを横目に見ながらの日常であったが、今回あらためて読み直し、その具体的な反基地運動の重要さを感じた。前号(74)にあるように「平和運動は守りの意識から転じて攻めの意識に立つべきだ」(10ページ下段右)との認識には同感である。ただの通信会員ですがさまざま教えられています。お体を大切に。(猪野修治/教師/大和市)

●「いつも「トマ喰い虫」をお送りいただきありがとうございます。PKO法案は民社が降りて、自公で強行採決したと思つたら、「行司差し戻し」となりそうな雲行きです(11/30現在)。私事ですが、自分の体験から警察等国家権力を監視し、不正をウヤムヤにさせ

ないようにならうと思ひ、一つのサークルをつくりました。名称は警察監視委員会(Dollie Monitoring Committee 略称PMC)です。もうとも今は私一人です。(中略)：そんな訳で、まず第一にPMCの活動をムリをせずコンスタントに続けようと思ひますので、貴会には入会せず、協力者として時間が許せばそのつど参加したいと思ひます。それぞれの人が、それぞれの地域で、それぞれの立場で社会正義と平和のために働くのは平和勢力の層の厚みになると思ひます。その際各地域の人が孤立し、挫折しないよう、立場・目的・運動方法などを相互に尊重しあつた上で、情報を交換し、交流していくのは実りのあることだと思ひます。取り敢えずカンパとして切手を同封致します。(西部昭生/甲府市)

編集室から



●一年前の今頃は、連日、寒風吹きすさぶ都会のアスファルトの道をコートと靴をたてながら歩いていました。大勢の友達と一緒に。「湾岸戦争をすぐやめて!」「日本は戦争のために九〇億ドルもお金をださないで!」今年、ほのかに梅の花が香る近所の道を娘と散歩。暖かな冬の午後です。(や)

●久ぶりにアフター・ファイブをかちとった(お)であったが、職場で愛用する電卓が彼の身から離れてくれない。電卓が彼に恋をしたわけではない。この電卓を(お)は日吉の事務所まで連れて来て、毎月おなじみの会計報告を仕上げるのである。昼もパチパチ、夜もパチパチと電卓をたたくのは因果な身の上だとひとはいうかもしれない。けれども一仕事やりおえた安堵感と、あたたかさを取り戻した事務所の懐具合に(お)の心は和むのである。(お)

●事務所が装いをあらため、スペースも広くなりました。のぞきに來てください。(た)

原子力艦入港情報

(42)

1991年12月16日
~92年1月15日

P級=原子力潜水艦パーミット級
S級=原子力潜水艦ステーション級
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆12月21日午後1時58分原潜サンフランシスコ(L級)横須賀に入港。
- ◆12月23日午前9時44分原潜タニー(S級)横須賀に入港。
- ◆12月30日午後1時09分原潜ボギー(S級)横須賀に入港。
- ◇ 同日 午後1時28分原潜ボギー(S級)横須賀を出港。

●1991年1月1日から12月31日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	35回(うち原潜35回)
佐世保	6回(うち原潜6回)
ホワイトビーチ	4回(うち原潜4回)

1992年

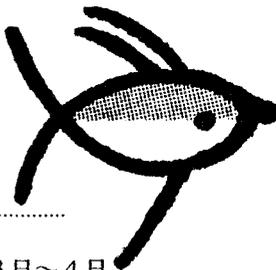
- ◇1月2日 午前9時43分原潜タニー(S級)横須賀を出港。
- ◇1月6日 午前9時50分原潜サンフランシスコ(L級)横須賀を出港。
- ◆1月7日 午後1時34分原潜サンフランシスコ(L級)横須賀に入港。
- ◇ 同日 午後2時05分原潜サンフランシスコ(L級)横須賀を出港。
- ◆1月11日 午前10時原潜サンフランシスコ(L級)ホワイトビーチに入港。
- ◇ 同日 午前10時30分原潜サンフランシスコ(L級)ホワイトビーチを出港。

●1992年1月1日から1月15日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	1回(うち原潜1回)
佐世保	0回
ホワイトビーチ	1回(うち原潜1回)

太平洋民衆フォーラム

海外基地のない世紀へ



日時：1992年5月3日～4日

場所：神奈川県政総合センター・ホール
(横浜駅西口徒歩3分)

基調講演：クリス・ウィング (米アプリントン大学。元アメリカ・フレンズ・奉仕団軍縮運動コーディネーター)

ゲスト：韓国、フィリピン、グアム、オーストラリア、ニュージーランド、カナダなど。

PCDS (太平洋軍備撤廃運動)

トマ喰い虫社

神奈川県を非核にする県民運動

NEPAの会

非核市民宣言運動ヨコスカ

県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会

生活クラブ生協神奈川

原水爆禁止国民会議

反核パシフィックセンター東京

NCC (日本キリスト教協議会) 平和委員会

日本カトリック正義と平和協議会

よびかけ

月刊トマ喰い虫第七十五号

一九九二年一月二〇日発行(通巻七十八号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動

〒二三三 横浜市港北区箕輪町三三三

トマ喰い虫社

☎〇四五(五六三)五一一

FAX〇四五(五六三)九九〇七

「郵便振替」東京六一三六一四八

*編集 トマ喰い虫編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)

会計報告

(91. 12. 16~92. 1. 18)

[収入]

○前月からの繰越	△ 85,277
經常繰越	64,723
借入金繰越	△150,000
○今月の収入	583,077
会費収入	451,500
内	
維持団体	40,000
維持個人	179,000
参加団体	30,000
参加個人	48,000
通信会員	154,500
カンパ収入	126,277
行動収入※	0
資料収入	5,300
反核ホットライン収入	0

[支出]

●今月の支出	216,208
家賃(1月分)	40,000
水道光熱費	5,000
電話代	15,381
郵送費	53,189
文具・備品	2,441
印刷費	35,552
行動費※	0
資料経費	0
反核ホットライン経費	0
雑費	865
郵便振替等手数料	5,830
事務所移転経費	7,950
借入金返済	50,000
●次月への繰越	331,592
經常繰越	431,592
借入金繰越	△100,000

*行動収入、経費は原則としてプログラム毎の独立採算となっているため、これにあてはまらない一部の収支のみが經常会計に計上されます。

会計から

たくさんさんの会費と年末カンパを送ってくださり、本当にありがとうございます。

今月はごらんのように会員の方々はじめ読者のご協力で二ヶ月つづきのドン底の財政状況からなんとか脱することができました。さらに借入金の一部を返済することができ、スタッフへのうれしいお年玉になりました。

なお、新事務所への本格移転にともない、これから家賃が上記の金額となります。ご了承ください。これからも引き続きよろしくお願いたします。(会計・太田)

